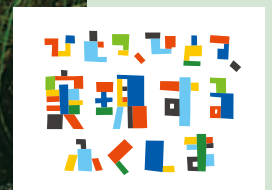


福島林業

No. **743**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 杉山純一



7 2026

監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 新緑の夏休み



森林資源の循環利用・有効利活用の推進に向けて

福島県森林組合連合会

代表理事会長 田 子 英 司

当会の業務運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故から十五年が経過しました。これまで、森林の公益的機能を確保するため、間伐等の森林整備とその実施に必要な放射性物質対策を実施する「ふくしま森林再生事業」や、かつての良質なきのこ原木林を取り戻すための「広葉樹林再生事業」などに、森林組合系統が連携して取り組んでまいりました。

これらの事業は本県の森林・林業を再生するために中長期的に取り組む必要があることから、令和八年度からの「第三期復興・創生期間」においても、引き続き県内森林組合と連携して取り組んでまいります。

一方、全国的に、森林資源の充実を背景に主伐再造林の取組が進められる中、本県においては、森林の再生に向けた取組に注力してきた結果、主伐再造林の取組が全国から大きく遅れています。今後、森林資源の循環利用の推進に加え、森林組合系統の経営基盤の強化も念頭に、主伐再造林の取組を強力に進める必要があります。

このため、これまでも様々な助言等を頂いてきた岩手大学農学部との関係をさらに強化するため、去る三月に同学との包括連携協定を締結したところです。今後、同学の豊富な知見や技術に基づくご指導をいただきながら、本県森林資源の循環利用の推進と、森林組合系統の経営基盤の強化に取り組んでまいります。

また、本県は原発事故以前、全国有数のきのこ原木の産地でしたが、事故後十五年を経過した現在においても一部の区域を除いて、きのこ原木を出荷できない状況が続いています。

このため、前段で触れましたが、次世代の原木林に期待をかけ、「広葉樹林再生事業」により更新伐に相当規模で取り組んでいます。伐採された材のほとんどがパルプ・チップ材として出荷されてきました。

広葉樹材の有効利活用を図るべく、国・県のご指導をいただきながら、県木材協同組合連合会などの関係機関とも連携し、ナラ材、サクラ材をトラックボディの床板用ラミナとして供給する取組を開始しました。今後、この取組を軌道に乗せるとともに、特に、会津地方の豊富な広葉樹資源の有効利活用に向け、系統が連携して家具用材やフローリング用材の供給も検討していきたいと考えております。

今後も、系統森林組合、関係団体等と連携し、目の前の課題を一つずつ解決し、前進してまいりますので、皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

森林資源の循環利用・有効利活用の推進に向けて 福島県森林組合連合会 代表理事会長 田 子 英 司	1
森連だより拡大版 国立大学法人岩手大学農学部との 包括連携協定書の締結	2～3
第54回全国林業後継者大会及び 第76回全国植樹祭の開催	4

県政コーナー

森林経営計画の推進	5～6
「企業等による森林づくり」活動	7
林業アカデミーふくしま研修日誌②	8
普及指導員通信	9
木連だより	10
木の文化を育む⑧	11
木材市況・ふくしま東西南北	12
はなしのひろば第158話・お知らせコーナー	13

団体のページ

森連だより

拡大版

国立大学法人岩手大学農学部との

包括連携協定書の締結

令和八年三月二六日に国立大学法人岩手大学農学部（以下、岩大農学部。）と当会は、包括連携協定書調印式を行い、同日に締結を記念したシンポジウムを会員組合向けに開催しました。

岩大農学部と当会は協定締結以前から、研修等における講師派遣を通じて県内林業情勢に関する意見交換や、岩大農学部の学生から要望を受けて森林保険業務に関する情報提供を行うなどの交流はありましたが、組織的な取り組みにまでは至らず、単発的なものでした。

その様な交流の中で、当会をはじめとした多くの森林組合で復興事業に依存した経営が続いていること、県内は多様な森林資源が充実しているものの、育林から林産への移行が十分にできていないことなど、本来の林業に立ち返る上で大きな課

題があることをご理解いただいており、諸課題の解決に向けて、岩大農学部と当会の協力関係を築く方法を検討した結果、包括連携協定を結び、より実効的かつ幅広い連携の構築を目指すことが最適であるとの結論に至り、今般の協定書締結を行ったところ です。

県域を超えた協定の締結は、県内森林組合系統が抱える課題を確実に乗り越えるため、東日本大震災・原発事故から大きく遅れてしまった福島県の林業が真の復興を遂げるためにはどうすべきか模索を続け、福島県林業の行く末を共に熟慮いただいた結果として包括連携協定が実現したこと、感謝の念に堪えません。

調印式は当会役員と岩大農学部から國崎学科長、伊藤教授、齋藤教授にお越しいただき、包括連携協定書の締結を行いました。調印式後に開

催した記念シンポジウムには県内森林組合系統の参加者を併せて五〇名以上が参集しました。

シンポジウムは開会の挨拶を当会会長田子が行い、当会専務丹治より包括連携協定締結の概要及び県内林業情勢を説明した後、岩大農学部の概要と森林科学コース全体の研究内容について國崎学科長から説明いただきました。続けて國崎学科長、伊藤教授、齋藤教授からそれぞれ取り組みについている研究内容について発表をいただきました。各研究内容は、県内森林組合系統が抱える課題に関連することや、普段の



業務では気づかない視点での新たな発見があり、包括連携協定の取り組みに更なる期待を膨らませると共に、県内森林組合系統にとっても貴重な情報を得る機会となりました。

今後も定期的なシンポジウムの開催や地域の課題に特化した勉強会など、岩大農学部と県内森林組合系統の双方にとって人材育成となる場を設け、実



調印式後、出席者による記念撮影

務と学術を掛け合わせた知識の習得ができる機会の醸成を行ってまいります。

東日本大震災・原発事故により、未だに相双地区においては森林施業を実施していないエリアが大半を占める中で、帰還困難区域における森林作業ガイドラインが制定されるなど復興に向けた歩みが進められてきており、系統としても復興の一助と

なるべく、復興事業に注力してきましたが、復興事業に長期間従事したことにより、採材技術の喪失や主伐再造林への転換の遅れなど、本来の林業に立ち返る時期を迎えながらも、体制が整っていないのが現状です。

戦後の拡大造林から初めて迎える収穫期を逃さぬよう、主伐による森林資源の有効活用を促進し、豊かな



記念シンポジウム

森林資源を次世代に繋いでいくため、森林所有者の皆様が次の森林経営に対する夢を抱けるよう、次世代に繋がる林業を継続していくことが、我々森林組合系統が果たすべき大きな使命です。

この転換期に適切していくための第一歩として、当会の販売能力の強化、主伐再造林を効率的に実行できる作業システムの検証、地域性等を考慮した森林経営の検討など森林所有者の皆様が「ずっと山を持ちたい」と思える林業の実現に向けて取り組みを進めていきたいと考えております。実現するには森林組合系統に留まらず、関係各位のご協力が必要となりますので、より一層連携を密にしこの転換期を乗り越えていけるようお願い申し上げます。

今般の包括連携協定を最大限に活かした取り組みを推し進めることで、森林組合系統が築いてきた現場力に加え、岩大農学部豊富な研究成果による学術的なアドバイスや効率的な施業方法の検証など、福島の森林を次世代に繋いでいくために、森林所有者の皆様におかれましては、是非ともお近くの森林組合に森林経営のご相談をいただければ幸いです。森林経営は一人では解決が難しい問題も多くあることは事実ですが、系統のスケールメリットを活かしたご提案をいたします。

結びとなりますが、今般の包括連携協定締結にあたり、特段のご協力いただいた岩大農学部齋藤教授をはじめ、先進事例についてご教授いただきました長崎県森林組合連合会小川様、スギサチ林業事務所大地様、包括協定締結にご尽力いただいた関係各位に感謝を申し上げます。

今後、連携協定を軸に福島の林業が真の復興を成し遂げられるよう、森林組合系統一丸となって取り組んで参りますので、皆様のご指導、ご協力よろしく申し上げます。



研究内容の紹介

第五十四回全国林業後継者大会及び 第七六回全国植樹祭の開催

福島県森林計画課

○第五十四回全国林業後継者大会開催
令和八年五月十六日(土)、愛媛県久万高原町(くまこうげんちょう)の産業文化会館において、「人と技つなぐ愛顔(えがお)の森・未来」をテーマに第五十四回全国林業後継者大会 愛媛2026が開催され、全国から約四〇〇名の林業関係者が集いました。

本大会は、翌日に松山市で開かれた第七六回全国植樹祭の関連行事として実施されました。

式典は、石鎚天狗太鼓の演奏などで幕を開け、活動発表では担い手確保に向けたイベントづくりや情報発信、ドローンやデジタル技術を活用した新たな取組が紹介され、パネルディスカッションでは「森林・林業を次世代へ引き継ぐための挑戦」をテーマに、各地域の課題や取組、今後の展望について活発な議論が行われました。

また、愛媛県で唯一、林業を総合的に学べる愛媛県立上浮穴(かみう)

けな) 高等学校の生徒が、地元産スギを用いた楽器づくりなどの活動をパネルで紹介しました。

本大会を通じて共有された、担い手の確保・育成、地域資源の有効活用、持続可能な森林経営の推進に係る知見を参考にして、本県においても人材育成に取り組む林業アカデミーふくしまや林業事業体、地域との連携による林業の魅力発信を進め、次世代につながる持続可能な林業の構築に向けて、後継者の育成に努めてまいります。

○第七六回全国植樹祭

令和八年五月十七日(日)には、第七六回全国植樹祭が愛媛県総合運動公園で「育てるけん 伊予の国から緑の宝」を大会テーマに開催されました。

天皇陛下に御着座いただくお野立所は、森林資源の循環(「植える」「育てる」「使う」)を愛媛県産スギ・ヒノキのCLTを使用した巨大な三角形で表現され、装飾には国指定の伝

統工芸品である「砥部焼」や「大洲和紙」が使用されており、とても華やかな印象を受けました。

プロローグアトラクションでは、久万山五神太鼓の力強い演奏と石鎚山の修験者による法螺貝の音色で式典の開幕が告げられました。次に、愛媛県の実業の歴史や取組などについて、松山城下へ馬の背で物資を運ぶ道中に馬子が歌ったとされる三坂馬子唄や草薙剛さんの語りにより紹介されました。

式典のメインである植樹行事では、天皇皇后両陛下がスギ(無花粉)やクロマツなどをお手植え・お手播きされ



天皇陛下によるお手植えの様子

ました。お手植えの際にご使用になられた御鉢は、昭和四十一年に愛媛県で開催された前回大会で昭和天皇・香淳皇后がご使用になられた御鉢の一部を用いて制作されたそうです。

式典の最後には、今まで受け継がれてきた想いとともに木製地球儀が愛媛県から次期開催県である奈良県に引き継がれました。

エピローグアトラクションでは、林業従事者や出演者によるメッセージが発信され、大会テーマソングの演奏とともにフィナーレを迎えました。

今回我々参加者が座った招待者ベンチや会場に設置されていたプラントーカーバーには、前回大会で植樹されたスギ・ヒノキが使用されているそうで、過去から未来へつながる森林資源の循環について身をもって体感し、感銘を受けました。今年十一月一日(日)に開催予定のふくしま植樹祭においても、「伐って、使って、植えて、育てる」循環の理念を発信してまいります。



おもてなし広場に設置された蛇口からみかんジュース

県政コーナー

森林経営計画の推進



福島県森林計画課

○森林経営計画とは

森林経営計画とは、「森林所有者」又は「森林の経営の委託を受けた者」が、自らが森林の経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について作成する五年を一期とする計画です。

一体的なまとまりを持った森林において、計画に基づいた効率的な森林の施業と適切な森林の保護を通じて、森林の持つ多様な機能を十分に発揮させることを目的としています。

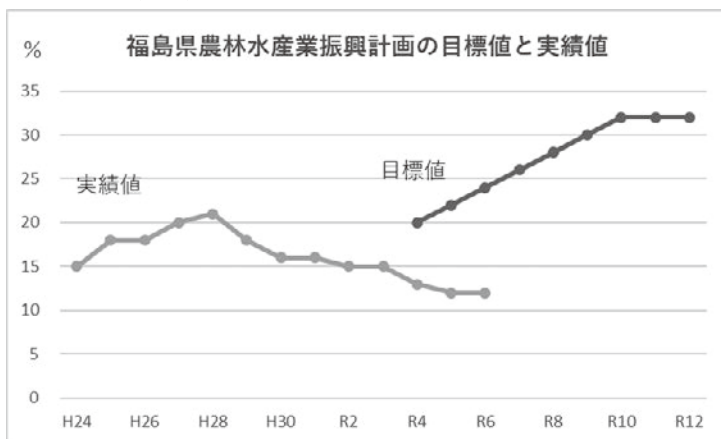
森林経営計画を策定すると、主伐の上限材積や最低限必要な間伐の下限面積等が設定されますが、同計画

を策定した森林を対象に、造林補助の上乗せや、所得税・相続税等の特例措置、日本政策金融公庫資金等における融資条件の優遇等を受けることが可能です。また、木質バイオマス発電におけるF-I-T制度やJクレジット制度の要件等にもなっています。

さらに、令和六年に林野庁がとりまとめた「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」を踏ま

森林環境の状態のモニタリング例			
日時	〇年〇月〇日	場所	〇県〇市〇林班
実施内容 (植生調査・ 巡視等)	・ヤマブキ・スズメバチ等が確認された。林床 樹生は豊かに繁茂している。 ・巡視の結果、作業道からの顕著な土砂 移動は認められない。		
特記事項	台風〇号による倒木は確認されなかった。		
写真			主伐箇所の 状況
			造林木と 下層樹生の 状況
	...		...
 森林施業など活動に伴う森林の 変化を巡視や写真撮影等により 記録します。			

(図1)



(表1)

え、生物多様性保全の取組に係るPDC Aサイクル実施を森林経営計画の作成を通じて行うことができるよう、令和七年三月に計画書の様式が見直されています。(図1)

○福島県の推移と現状

福島県では、森林経営計画が策定された森林を長期的に適切な森林整備が成される森林として、「福島県農林水産業振興計画」の指標として

います。具体的には、福島県の民有林面積のうち、森林経営計画が策定された割合を令和十二年までに三二割以上としています。令和六年度現在の実績は約一二割と、目標値との乖離が広がってきている現状です。(表1)

実績値を確認すると、平成二八年までは上昇傾向で推移してきましたが、それ以降は減少傾向となっています。その要因として、東日本大震災からの復興を優先する中で、制度初期に立てられた計画の継続が進まなかったことが考えられます。

また、福島県の森林は、国土調査が完了していない箇所も多く、境界が不明確・所有者が不明な森林については計画策定が難しく、新規策定を阻む大きな要因となっています。

一方、近年ではJクレジットの認証や、間伐をはじめ、皆伐後の再造林を行う際の造林補助を活用するため、新規計画策定の相談がきていることから、後述する支援や研修会等により、森林経営計画の策定を推進しております。

○福島県の取組

福島県では、森林経営計画の策定を支援するため、計画策定を簡易に行える様式の提供や、策定及びその前段階に活用できる補助金等を用意しているため、それらについて紹介します。

・森林経営計画策定様式

森林経営計画は、単純な伐採・造林計画だけでなく、その計画が各種制限を満たしているか、市町村森林整備計画に則っているかなどを確認する必要があることから、計画策定者と認定者である市町村の双方から「難しい」、「事務負担が膨大で計画を立てたいが立てられない」といった意見が多くありました。このことから、森林簿のデータを用いることで、それらの判定を自動で行い、認定後は県のクラウドシステムに登録することが出来るExcel様式を作成しています。

本様式では、必要情報を入力していき、森林簿のデータを取り込んだ後に施業履歴や伐採・造林計画等を

(図2)

しています。実際に本様式で経営計画を策定した場合は、印刷した物と別に、Excel自体を市町村に提供することで、市町村でクラウドに情報を入れて、図面上で計画策定情報を管理することが出来ます。

本様式は「ふくしま森林クラウド」の利用登録をしている事業者や市町村はそこから直接利用することが出来ます。登録していない場合は最寄りの農林事務所か県森林計画課までお問い合わせください。また、様式作成に必要な森林簿のデータについては、条件を満たせば県に申請することで取得可能となっています。

・森林整備地域活動支援交付金 標記交付金事業では、森林経営計画の策定や間伐の実施を推進する

「森林経営計画作成促進」の他、森林施業等の前提となる森林所有者・境界の明確化を行う「森林境界の明確化」及び「森林所有者の探索」並びにそれらに必要な既設路網の簡易な改良を行う「森林経営計画作成・森林境界の明確化に向けた条件

整備」などを行うことが出来ます。その中でも「森林境界の明確化」では近年リモートセンシングデータを活用して境界を推測することで、所有者の現地立会の省略や机上での同意取得が可能となっており、効率的に境界明確化を行える手法として期待されており、県でも推進しています。

こちらの事業に興味があれば、最寄りの農林事務所か県森林計画課までお問い合わせください。

○おわりに

福島県における森林経営計画の策定状況は、震災後の復興対応や森林境界の不明確さなどの課題により、十分に進んできたとは言えない状況にあります。

一方で、本稿で紹介した様式の整備や支援制度の活用により、計画策定に向けた環境整備は着実に進んでいます。

今後は、これらの取組を通じて森林経営計画の策定を一層推進し、適切な森林整備と森林の有する多面的機能の発揮につなげていきます。

「企業等による森林づくり」活動

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局

当協会は、県内の森林づくりの活動を一層進めるため、福島県の「みんなで支えよう森森（もりもり）元氣事業」に取り組み、企業や団体等が社会貢献活動として行う植樹活動等をサポートしております。

この森林づくり活動に取り組むにあたっては、企業等の皆様は、森林所有者などと森林づくり協定を結び、活動していただくこととしております。

平成二一年度にスタートしました森林づくり協定は、現在までに十七件、五五・九一の森林において結ばれており、現在「表一」のとおり四企業が活動に取り組んでいます。

また、平成二六年からは、東日本大震災により大きな被害を受けた海



広葉樹の植栽



クロマツの植栽（海岸防災林）

表一 企業等による森林づくり協定締結一覧

（R8.4.1現在活動中）

No	企業等名	ほか協定者	活動場所	協定締結年月日	協定期間	協定面積(ha)
1	株式会社みずほフィナンシャルグループ	下大越共有山林組合 いわき市 福島県	いわき市平下大越 字南横手226番地	H25. 4. 24 H31. 3. 29 R 4. 3. 17 R 7. 3. 14	H25. 4. 24～ R10. 3. 31	2.27
2	日本精工株式会社	棚倉町 福島県	棚倉町大字関口字 井戸作132-7ほか	H31. 2. 4 R 6. 3. 5	H31. 2. 4～ R11. 3. 31	6.35
3	日本貨物鉄道株式会社	(公財)ふくしまフォレスト・ エコ・ライフ財団 福島県	安達郡大玉村玉井 字長久保65	R 5. 9. 28	R 5. 9. 28～ R10. 3. 31	2.00
4	光建工業株式会社	白河市 福島県	白河市菅生館1-1 及び18	R 6. 10. 16	R 6. 10. 16～ R11. 3. 31	0.15
合計（4者・4協定）						10.77

表二 企業・団体等による海岸防災林の植樹活動 協定締結一覧 （R8.4.1現在活動中）

No	企業等名	ほか協定者	活動場所	協定締結年月日	協定期間	協定面積(ha)
1	(公社)福島県トラック協会	相馬市 (公社)福島県森林・林業・緑化協会 福島県	相馬市磯部字大洲 38-3	H29. 4. 4 R 2. 1. 21 R 8. 2. 20	H29. 4. 4～ R11. 3. 31	0.20
2	福島キヤノン株式会社	南相馬市 (公社)福島県森林・林業・緑化協会 福島県	南相馬市鹿島区南 海老字中谷地89 ほか	H30. 9. 28 R 2. 12. 22 R 6. 3. 12 R 8. 2. 16	H30. 9. 28～ R11. 3. 31	0.53
3	全富士通労働組合連合会	南相馬市 (公社)福島県森林・林業・緑化協会 福島県	南相馬市鹿島区南 右田字谷地35ほか	H30. 10. 16 R 7. 2. 10	H30. 10. 16～ R 9. 3. 31	0.53
4	(公社)福島県トラック協会	相馬市 (公社)福島県森林・林業・緑化協会 福島県	相馬市磯部字大洲 38-3	R 1. 10. 25 R 8. 2. 20	R 1. 10. 25～ R11. 3. 31	0.40
5	株式会社メイワ	南相馬市 (公社)福島県森林・林業・緑化協会 福島県	南相馬市鹿島区南 海老字中谷地195番 ほか	R 2. 10. 20 R 5. 2. 24 R 7. 2. 10	R 2. 10. 20～ R 9. 3. 31	0.08
6	全富士通労働組合連合会	(公社)福島県森林・林業・緑化協会 福島県	南相馬市小高区塚 原字一丁田101-1 ほか	R 8. 1. 16	R 8. 1. 16～ R13. 3. 31	0.27
7	株式会社メイワ	(公社)福島県森林・林業・緑化協会 福島県	南相馬市原町区萱 浜字東蔵前20	R 8. 1. 16	R 8. 1. 16～ R11. 3. 31	0.05
合計（4者・7協定）						2.06

表三 令和7年度 企業等による森林づくり活動状況

No	活動場所	実施者	月 日	面 積(ha)
1	いわき市平下大越地内	株式会社みずほフィナンシャルグループ	11月6日、11月7日、 11月9日～11月11日	1.32
2	棚倉町関口地内	日本精工株式会社	11月29日	1.67
3	安達郡大玉村玉井地内	日本貨物鉄道株式会社	8月1日、8月4日～ 10月17日、10月24日、 11月16日～12月26日	1.04
4	白河市菅生館地内	光建工業株式会社	10月9日、11月1日	0.06
5	相馬市磯部字大洲地内海岸防災林	(公社) 福島県トラック協会	10月14日、10月15日、 10月20日	0.60
6	南相馬市鹿島区南海老地内海岸防災林	福島キヤノン株式会社	11月8日	0.53
7	南相馬市鹿島区南右田地内海岸防災林	全富士通労働組合連合会	5月18日、10月12日	0.26
8	南相馬市鹿島区南海老地内海岸防災林	保土谷化学工業株式会社	9月11日、11月12日、 11月13日	0.18
9	南相馬市鹿島区南海老地内海岸防災林	株式会社メイワ	6月21日、10月27日	0.08
合 計				5.75

岸防災林においても、協定を結び海岸防災林の再生を目的に森林づくり活動を進めてまいりました。現在までに計二四件、六・八の海岸防災林において協定が結ばれおり、令和七年度は新規で二件（全富士通労働組合連合会様、株式会社メイワ様）協定締結しました。現在「表二」のとおり四企業・団体（七協定）が活動に取り組んでいます。

このような企業や団体の皆様により森林づくり活動に感謝いたしますとともに、今後とも「企業等による森林づくり」の活動をサポート

してまいります。現在、新たに協定を締結し、森林づくり活動ができる森林区域等を募集しておりますので、市町村や森林所有者などの皆様方から情報提供やご相談をお待ちしております。また、当協会ホームページにて現在、棚倉町や南会津町での森林づくり活動を実施していただける企業や団体を募集しておりますので、是非お問い合わせください。



林業アカデミーふくしま研修日誌②



○五月の研修内容

今月は、基礎的な知識と技術を習得するとともに、車両系建設機械運転技術技能講習と高性能林業機械特別教育を合わせて十日間かけて受講しました。研修生たちは林業機械による技術の習得に向けたスタートラインに立つことができました。

●森林施業「技術」の習得

「立木調査」

林分材積や立木密度などを調査するため、輪尺やトゥールパルスなどの道具の使い方や材積、形状比、相対幹距比などの計算方法を学びました。その後、一〇〇平方メートルの方形プロットと円形プロットを作り、胸高直径等を計測、データをもとに材積などの算出を行い、林分の評価を行いました。

「チェーンソー伐木造材技術」

前回の講義に引き続き、丸太をまっすぐ輪切りにする練習と新たにスパイクを使って伐る練習を行いました。その後、短い丸太を立てて、受け口を作る練習を行いました。「チェーンソー・刈払機の取扱と安全性の追求」

ハスクバーナ・ゼノア㈱と㈱スチールに講師をお願いし、各メーカーのチェーンソー・刈払機の構造やメンテナンスの方法など、詳しく教えていただきました。

●資格の取得

「車両系建設機械運転技術」

林業機械のベースマシンとなる車両系建設機械の技能講習を受講しました。今回の操作方式はJIS規格（横旋回）でしたが、今後は縦旋回での実習も行っていく予定です。

「走行集材機械、伐木等機械、簡易架線の基礎」

車両系建設機械技能講習に引き続き、高性能林業機械の特別教育を受講し、フォワーダ、フェラーバンチャザウルス、スイングヤーダの操作練習とワイヤー編み（アイスプライス）の実習を行いました。

●インターンシップの実施等

「社会人教養（登山と植物観察）」

植物観察と山歩き・体力づくりのため、郡山市と須賀川市の境に位置する宇津峰山の登山を行いました。新緑を感じながら道中の植物を観察し、アカデミー帰着後は図鑑を使って樹種の同定（判別）を行いました。

○研修生の感想

紋間雅也（もんままさや）

五月の研修では、立木調査、車両系建設機械運転技術、チェーンソーおよび刈払機の取り扱いと安全管理、チェーンソーによる伐木・造材技術、走行集材機械、伐木等機械、簡易架線の基礎などの様々な技術について学びました。

立木調査では、木材を適切に管理するために樹種や胸高直径、樹高などを正確に測定することの重要性を理解しました。車両系建設機械や林業機械、簡易架線の研修では、様々な機械の特徴や用途を学ぶとともに、安全な作業のためには日常点検と適切な運転操作、そして指差し呼称といった周囲の確認が重要である



フォワーダの操作練習



立木調査の様子

ことを改めて認識しました。また、チェーンソーや刈払機の取り扱いでは、正しい使用方法や保護具の着用、キックバックなどの危険性について理解を深めました。

さらに、伐木・造材技術では受け口を作る実習を行いました。受け口の形だけでなく伐倒方向も考慮した技術が求められており、安全に伐倒するためにはたくさんの練習が必要だと感じました。

今月の研修を通じて、安全を最優先に考えながら正しい知識と技術を身に付けることの大切さを学びました。今後は、研修で得た知識と経験を現場での実践に活かしながら、伐木・造材技術をはじめとする各種技術のさらなる向上に努めてまいります。

自立した林業経営のために ～飯舘村森林組合への普及指導事例～

福島県相双農林事務所

林業普及指導員 武 藤 司

1 はじめに

飯舘村内の森林経営及び森林整備は、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う全村避難等により一時大きく停滞したことから、ふくしま森林再生事業や広葉樹林再生事業（以下、「再生事業等」とする）の取組が進められています。

公的主体の森林整備が継続して必要である一方、平成29年の避難指示解除に伴い帰還した所有者等からは森林組合への林業経営に関する相談もあり、従来のような組合主体の森林整備も求められています。

しかしながら、森林組合では、世代交代等により再生事業等の受注以外経験の無い職員が多くなり、事業実施に関するノウハウの継承が課題となっています。

このような背景を踏まえ、飯舘村森林組合に対し、森林経営を推進するための体制構築に向け、森林組合主体による森林整備も担えるよう、その手法について普及指導を行うこととしました。

2 取組の内容

(1)森林経営計画策定支援

再生事業等で整備された森林の継続管理に向け、飯舘村が行う同意取得に併せ、森林経営計画作成のための長期受委託契約の締結を促進するよう、飯舘村森林組合へ提案を行いました。また、森林経営計画の作成方法等に関する研修会を開催し、組合職員の知識習得に取り組みました。

この結果、令和7年度までに、村内私有林6,320haのうち約765haで経営計画の認定を受けることができました。

(2)組合主体の森林整備実施指導

再造林対策の新規事業として、花粉の少ない森林づくりモデル事業、特定機能回復事業（林相転換事業）の活用について指導を行いました。

低密度植栽に対応するための苗木間隔の設定等のコスト縮減対策に加え、事業実施までの手続きなどの指導を行い、花粉症対策に配慮した効率的な森林の若返りと、組合職員における事業実施ノウハウの蓄積を図りました。

（花粉の少ない森林づくりモデル事業（人工造林 再造林）実績）

令和6年度 1.17ha、令和7年度 1.08ha

令和8年度以降も1ha程度の事業を計画しており、継続的な森林整備の実施が見込まれています。

3 今後の対応

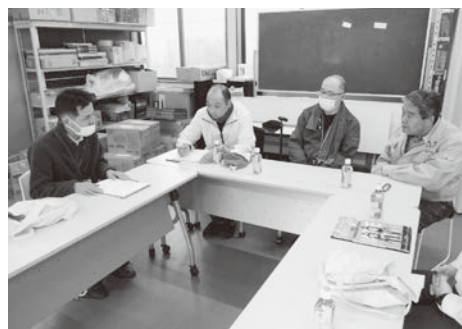
再生事業等公的主体による森林の再生と並行して、森林経営計画による林業経営に移行する取組により、森林組合が中心となって村内の森林を管理できる仕組みが確立できると考えられます。飯舘村では今後も再生事業等の実施が見込まれることから、その同意取得と併せ、引き続き、飯舘村森林組合が作成する森林経営計画の規模拡大を図り、村内に広げていく必要があります。

また、担い手の確保も課題となっており、林業見学会や林業労働安全指導等の取組も継続し、林業従事者の確保と定着に取り組むことで、森林組合の体制強化に繋がっていきたいと考えています。

公的整備と組合主体の整備を両輪として事業体としての体力を付け、将来的には森林組合が主体となり飯舘村内の永続的な森林整備ができるよう取組を進めていきます。



森林経営計画作成方法の指導状況



再造林のため森林整備事業の指導状況

団体のページ

木連だより

第六三回
通常総会の開催

去る五月二十九日、福島市のウェディングエルティにおいて、第六三回通常総会を開催いたしました。

佐川広興副会長の開会宣言の後、

風間良一会長から、「昨年の県内の新設住宅着工数が六、八八〇戸と九年連続で前年を下回り十年前の四割に減少。全国的にも七五万戸を割り込み六〇年前の過去最低水準となった。さらに、中東情勢に起因するあらゆる資材の高騰、入手困難が顕在化しており、木材産業界は今までにない厳しい状況におかれている。一方、昨年の大阪・関西万博の大屋根リングやパビリオンに本県で生産された木材が活用されたが、来年三月に開催される国際園芸博覧会の施設にも県産材が利用されると聞いており、様々な機会を捉えて県産材のPRに取り組んでいく。また、昨年十二月には「森の国・木の街」づくり

宣言へ参画しあらゆる場面で木材利用が当たり前となるウッドファースト社会の実現に向けて取り組む。」と挨拶がありました。

続いて、本県木材産業の振興に尽力された方々の表彰が行われた後、来賓の小貫薫県農林水産部長様、添谷稔福島森林管理署長様、板垣靖全国木材組合連合会参与様よりご祝辞をいただきました。

その後、荒川仁弥福島県外来地区木材製材協同組合理事長を議長に選出し議事が進められ、事業方針に基づき、JAS材供給体制整備や安全・安心な県産材の安定供給体制の構築、県産材の需要拡大と木造建築物の建設を促進するため、県産材を使用した木造住宅の普及や公共施設の木造化・木質化に向け県や市町村への要望活動、花粉症対策としての住宅分野でのスギ製品の利用促進。

福島の木材産業の発展と、県産材の需要拡大と木造建築物の建設を促進するため、県産材を使用した木造住宅の普及や公共施設の木造化・木質化に向け県や市町村への要望活動、花粉症対策としての住宅分野でのスギ製品の利用促進。



さらには合法木材、クリーンウッド法の定着、労働安全対策などに取り組み事業計画が上程され、原案のとおり承認されました。

今回承認された事業計画に基づき、会員の皆様と連携しながら、森林資源の循環利用、木材需要の拡大と木材産業発展に取り組んでまいりますので、引き続き関係の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

「木材産業功労者表彰」

○組合事務局専従功労者

橋本信子（福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合）

○優良勤続者

加藤貞雄（㈱日新土建）、藤原弘一（㈱日新土建）、柏村俊也（有）大須賀林業）、八木秀幸（有）IN八木林業）、義煎恵美（協興久慈木材流通センター）



議事の様子



功労者表彰



風間会長挨拶

木の文化を育む⁽⁸⁸⁾

里山の恵みを生かす地域のつながり
地域資源の継承
（海老根和紙保存会 熊田一成）

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

里山の資源を暮らしの中で活用する営みには、その土地ならではの知恵や、人と人とのつながりが育まれています。こうした地域の取り組みは、里山の恵みを見つめ直し、暮らしの豊かさを考える契機となっています。

○海老根和紙保存会の取組

郡山市中田町海老根地区では、古くから伝わる和紙づくりが今も大切に受け継がれています。

海老根和紙保存会は、その手仕事を守り伝える担い手として活動を続けており、地域に受け継がれてきた技や知恵を今につないでいます。和紙づくりは、楮の収穫からはじまり、寒さの増す時期に楮を蒸し、皮をはいで、ちりを取り除き、手間を重ねながら一枚一枚でいねいに紙を漉きます。こうした和紙づくりを継続しながら、和紙づくり体験講座や展示、和紙を活かした地域のイベントを通して、その魅力を県内外へ伝えています。

この活動に積極的に取り組む海老根和紙保存会 副会長 熊田一成さんは、和紙づくりに携わる仲間とともに、地域の資源を生かし、暮らしへとつないでいく楽しみを大切にしています。そうした想いの一つが、地域で採れる竹を材料としたメンマづくりです。

○幼竹でメンマづくり

地域で採れた幼竹でメンマをつくる活動は、毎年5月中旬頃に行われています。里山で幼竹を採り、仕込みを行う作業は、単純に見えて手間のかかる作業です。しかし、地域の人々が集まり、ともに手を動かしながら取り組むことで、その季節ならではの楽しみが生まれます。里山の恵みを食へとつなぐ活動は、地域の身近な資源の発見につながることに、季節の移ろいを感じる手仕事の楽しみでもあります。

○地域をつなぐワークショップ

メンマづくりは、地域の人々が集まる機会にもなっています。作業の間には、地域の出来事や暮らしに

まつわる話が交わされ、交流を深めながら賑わいます。また、地域の公民館の企画としても活かされ、広く地域の人々へメンマづくりのノウハウや楽しみ方を伝えていきます。こうした取り組みは、地域資源を共有するだけでなく、人と人とのつながりを深める大切な役割も果たしています。

○まとめ

海老根和紙保存会の取り組みと、そこに携わる人々によるメンマづくりは、いずれも地域資源を見つめ直し、暮らしの中で活かしていく営みです。熊田さんは、「和紙づくりやメンマづくりを楽しみに人が集まり、賑わいが生まれることに魅力を感じ、やりがいを実感しています」と話します。和紙づくりに受け継が



幼竹の切り方を指導する熊田さん



茹で上げ直後の肉厚な幼竹が美味しい！



里山の幼竹

※幼竹を大釜で煮る→塩水に漬けて発酵→塩抜き→調味→メンマ完成！！
(発酵後に天日干しすると長期保存も可能)

れてきた手仕事の知恵と、幼竹を活用する楽しみが、一つのコミュニティを育み地域の人々をつないでいきます。こうした積み重ねが、里山の恵みを活かしながら、地域資源の価値を次世代へ伝えていく力になるとともに、暮らしの豊かさを見つめ直す機会となっています。

県森連いわき共販における木材市況（6月分）

令和8年7月1日
福島県森林組合連合会

（単位：㎡当り千円）

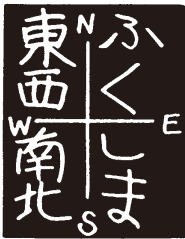
素 材					
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要
スギ	4.00	9 下	12.0	11.5	
		10～13	14.0	13.5	
		24上	13.5	12.8	
	3.65	16上			
		24上	11.5	10.3	
	3.00	9 下	11.5	9.5	
		10～13	11.5	10.3	
		14～16	12.0	11.5	
		18～20	12.6	11.5	
		22上	14.1	13.5	
ヒノキ	4.00	16～20	14.0	13.5	
		10～13	9.5	8.8	
		14～16	16.5	14.0	
		18～20	16.5	15.0	
	3.00	22上	16.5	15.2	
アカマツ	4.00	16～20	15.9	14.5	
		4.80	18～22		
		18～22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	
	3.00	16～22	10.5	10.0	
市況概要と市況展望					
販売量は2,258㎡（前年同月比75%）でした。 スギ3m、4m材とも、活発に取り引きされました。特に、22cm～38cm材が市毎に値上がり傾向で推移しました。 梅雨、虫害等の影響を受けると思われますが、出荷のほど、よろしく願いいたします。					7月の共販日
					7日(火)
					16日(木)
					27日(月)
行 事 と お 知 ら せ					
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。					
福島県森林組合連合会 木材市況					検索

いわき市遠野町入遠野地内の山中で、「軍馬戦没慰霊碑」と記された石碑に出会いました。周辺が山林であったことから、なぜこのような場所にあるのか不思議に思い、調べてみたところ、先の戦争において、軍馬として大陸に渡り、その地で命を落としたことを悼み、戦後に地元の方々によって建立されたものであることが分かりました。

かつての遠野村は「馬市場（おせり）」と呼ばれる競りが行われた馬産地のひとつであり、この山一帯も放牧地として利用されていたそうです。現在の森林の状況からは想像もつかない時代が過去にあったことを興味深く思ったところです。

また、馬は、農耕や運搬、さらには交通手段として、人々の生活に必要不可欠な存在であったことを改めて認識したところです。

現代では、馬が人々の生活に関わる機会はほとんどありませんが、こうした慰霊碑に触れることで、かつての暮らしや、そこに生きた人と馬



山に残る地域の記憶

福島県いわき農林事務所 菅野陽美

との深い結びつきを思い起こすことができるのではないだろうか。遠野町の山中で出会ったこの慰霊碑は、地域の歴史を語り継ぐ貴重な記念物として、今後も大切にされていくべきものだと感じました。



軍馬戦没慰霊碑



慰霊碑と周辺の山林の状況

表紙の写真



「新緑の夏休み」

第40回ふくしま緑の写真コンクール
入選
受賞者 長谷部孝太郎さん（福島市）
撮影場所：福島市
撮影スポット：水林自然林

発行人
柳田久

陽光社印刷株式会社
（福島市中町五番一八号県林業会館内）
（定価 一〇〇円）

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）

はなしの
ひろば

文披月（ふみひろば）

七月の和風月名「文月」は、「文披月」が省略されたものである。古来では、この「文」は書物の意味があり、七月七日の七夕の日に書物を夜風にさらし虫干しをした風習からと謂われている。梅雨時の虫干しか、という疑問はあったが、旧暦七月は、今でいう七月下旬にあたり、梅雨明けの虫干だった。

ところで「書物」や「書籍」「本」（まんが、雑誌も含む）などの違いはなんだろうか？調べたところ、全て知識を得るためのものであり、それぞれの表現が異なるだけのようなのだ。近年、電子書籍も開発され、どこにでも多くの本を持ち運べる利便性がある。

しかし、丁寧に書物を扱っていた時代、勉強をすることは大変貴重なことだったろう。「勉強」は、強く勉めると書く。知識や技術を取得するのだから気力の高さが窺える。さらに、自分のものへと昇華させるために、そこから自分なりの「学び」が始まる。私達にとって、暮らしのすべてが学びの対象であり、動物も環境に適応するために、自らの経験から学んでいく。

今、高校二年生の少年が小学一年生の時、国語のテストでひらがなをカタカナに直しなさい。という問題で「ふうりん」を「チャリン」と書いた。この設問の答えとしては間違いだが、少年の感性からの学びの答えではなかったろうか。その後、少年は、ひらがなとカタカナを勉強しただろうが、七月の湿り気のある風に「チャリン」という風鈴の音が聞こえると、少年のあの純な感性も相まって、湿気も心も瞬時に澄み渡っていくようだ。

第一五八話（都）

お知らせコーナー

第23回ふくしま森林・林業写真コンクール 作品募集

森林の大切さとそれを支える林業の重要性を県内外に広く発信するため、森林・木材との関わりや森林整備作業などをテーマにした作品を募集しています。

1 テーマ

下刈・間伐・皆伐再造林などの森林での作業、木材の利用、特用林産物（炭焼き、きのこ栽培、漆等）、里山風景、森林レクリエーションなど福島県内の森林・林業に関するもの。

2 応募資格

アマチュアで、福島県内で撮影した自作の未発表の作品に限ります。

なお、特別賞として学生の部を設けています。

3 作品サイズ

カラープリント、四ツ切・ワイド四ツ切（デジタル可）

4 応募締切

令和8年9月24日（木）（当日消印有効）

5 お問い合わせ先

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
企画管理室（TEL 024-573-0235）

作品応募の申込書は、当協会のホームページ（<https://www.fukurin-net.jp>）より、ダウンロードできます。



第22回最優秀賞（県知事賞）「未来の宝物」 広野資郎

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



たもちい

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



そよりん

GFB-90S

フェラーバケット
グラップル

新発売

イワフジ独自の2WAYバケットと格納式ソーユニットを装備した
道付け用オールインワンアタッチメント

For the future with forest

IWAFUJI

イワフジ工業株式会社



Website



Instagram



YouTube



(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1

TEL: 0197-23-3111 FAX: 0197-25-3177

(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1